

株式会社 大阪チタニウムテクノロジーズ

2023年度 決算説明会

2024年5月24日

01

2023年度 決算実績

02

2024年度 業績見通し

03

中期経営課題とその対応

01. 2023年度 決算実績(事業状況)

【全社概況】

- ✓ チタン需要は、航空機及び一般産業分野共に回復から成長軌道に移行しつつあり、サプライチェーンの再編も加わってスポンジチタンの需要は拡大基調にある
- ✓ コロナ禍を脱した世界経済の正常化に伴って原材料等の価格は高騰し、更に、地政学的リスクの顕在化によってエネルギーや資源価格の騰勢が続くが、スポンジチタン等の販売数量の拡大や価格適正化、円安効果などもあって、
2023年度通期の業績は **売上高553億円、 営業利益83億円、 純利益97億円**

【事業セグメント別概況】

チタン事業

- 拡大する需要に応えるべくスポンジチタンは概ねフル操業で生産
- 輸出、国内向け共にスポンジチタンの売上高は、**前年度比それぞれ約4割及び約2割の増収**
- 生産及び販売数量の拡大に加えて販売価格の適正化も進展し、円安効果もあって**営業利益は前年度比1.9倍**

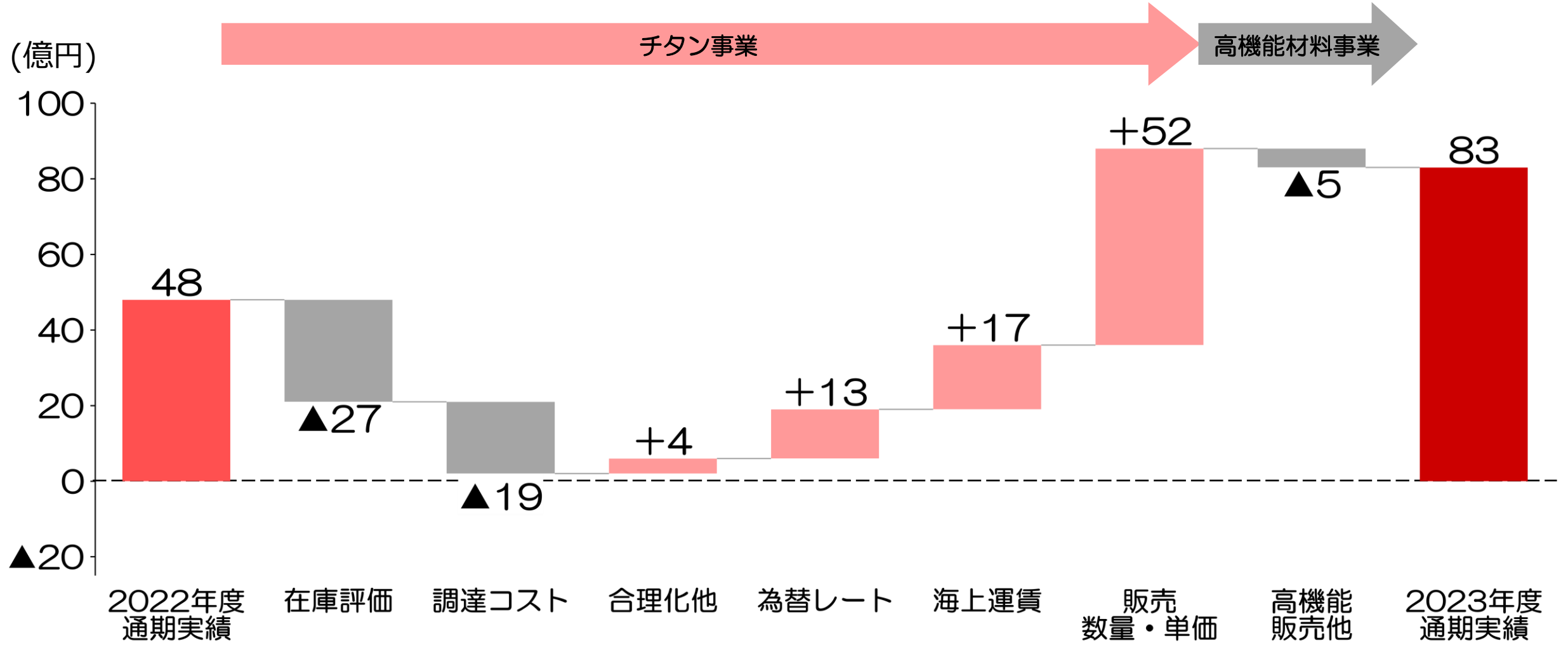
高機能材料事業

- 合金TILOP事業は段階的ながら成長する一方、低迷する半導体市場においてスパッタリングターゲット用高純度チタンの販売数量が大きく減少
- これに伴い**売上高は前年度比2割減少し、営業利益は▲2億円**

01. 2023年度 決算実績(業績概要)

(金額：億円)	2022年度 通期実績	2023年度 通期実績	通期差異
売上高	431	553	+122
営業利益	48	83	+35
経常利益	47	94	+47
税引前利益	45	93	+48
当期純利益	44	97	+53
為替レート(円/\$)	(135.1)	(143.8)	—
(期末日レート)	(133.5)	(151.3)	—

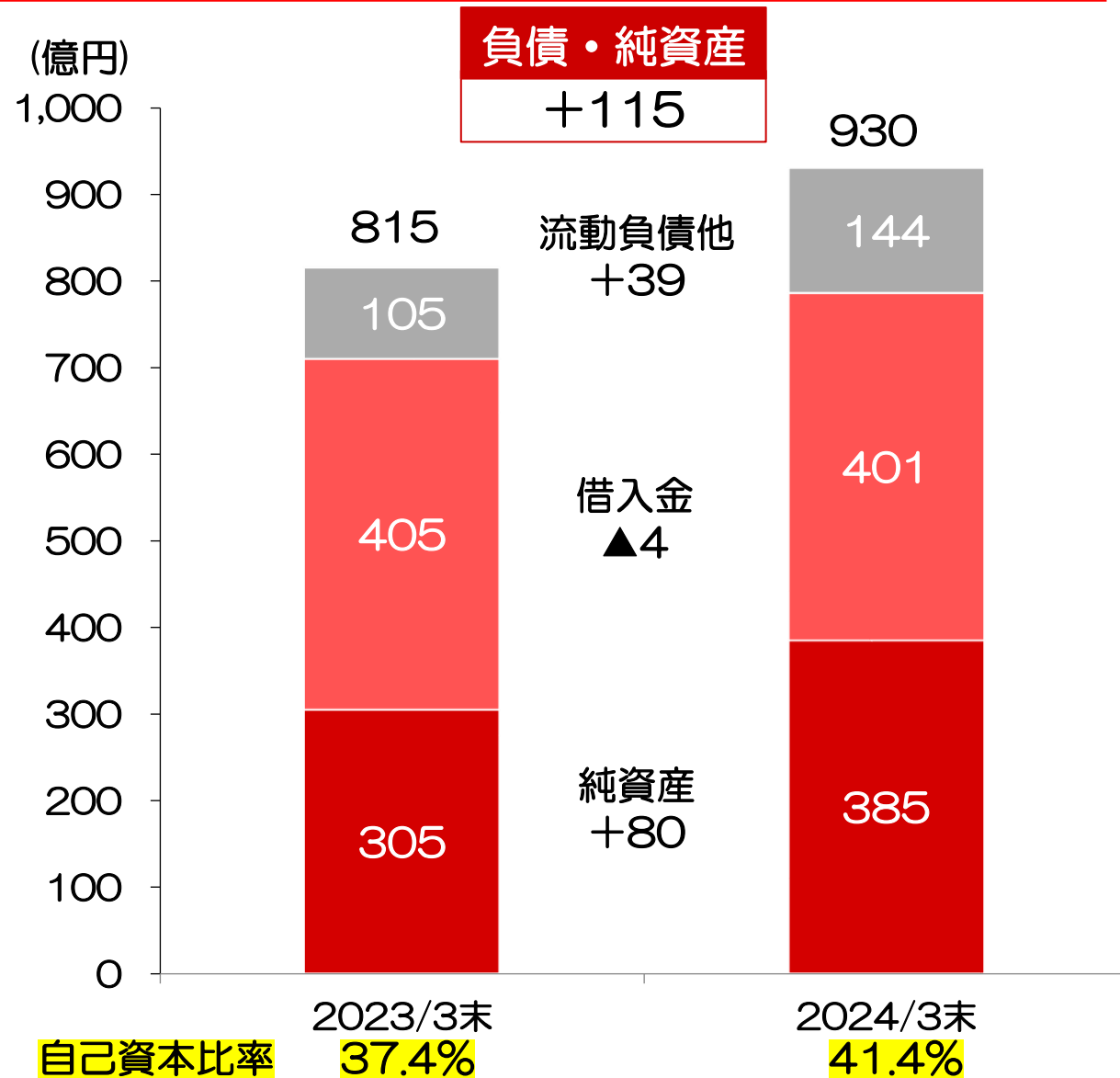
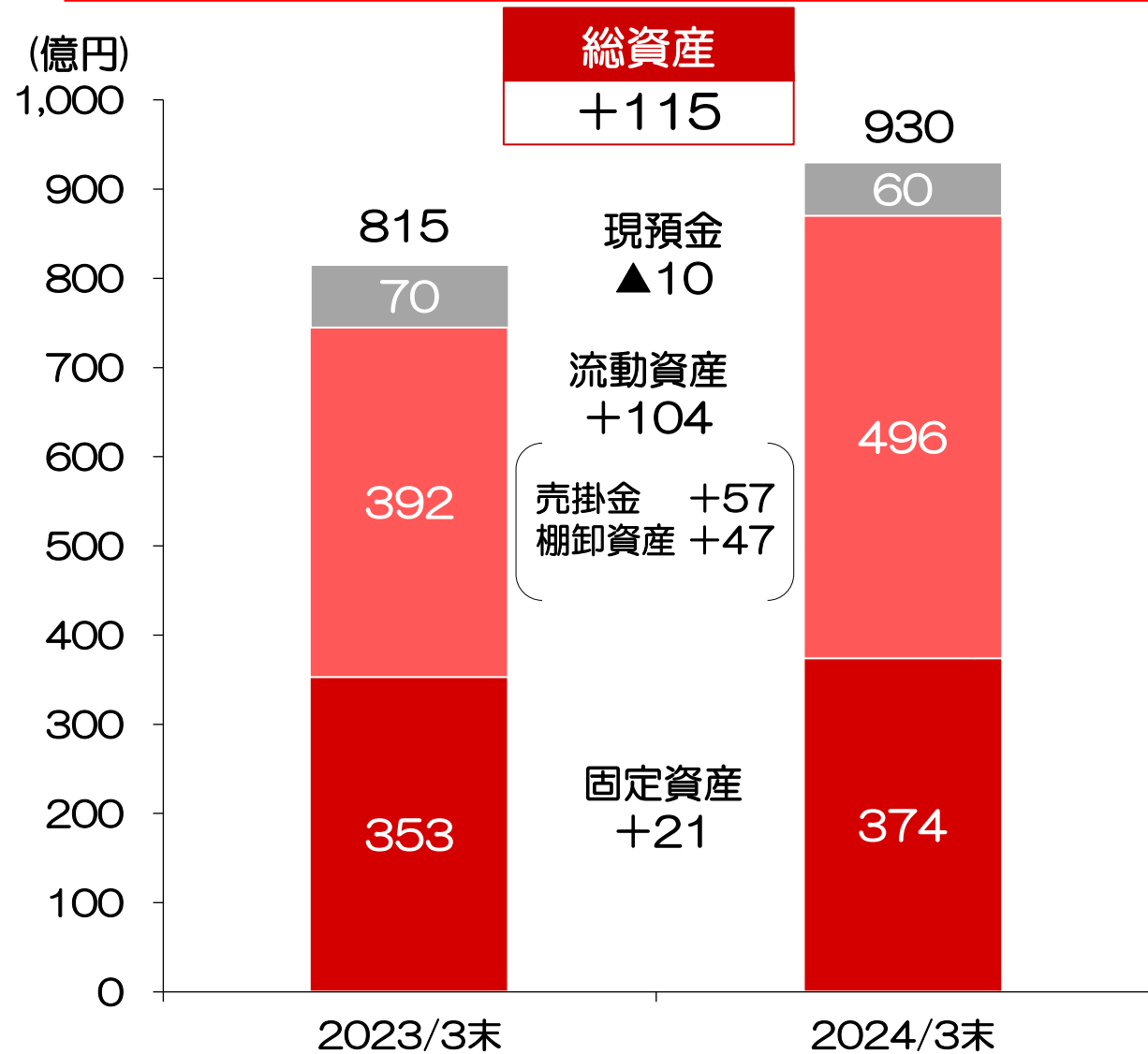
01. 2023年度 決算実績(営業利益増減内訳 対2022年度実績)



01. 2023年度 決算実績(事業セグメント別業績)

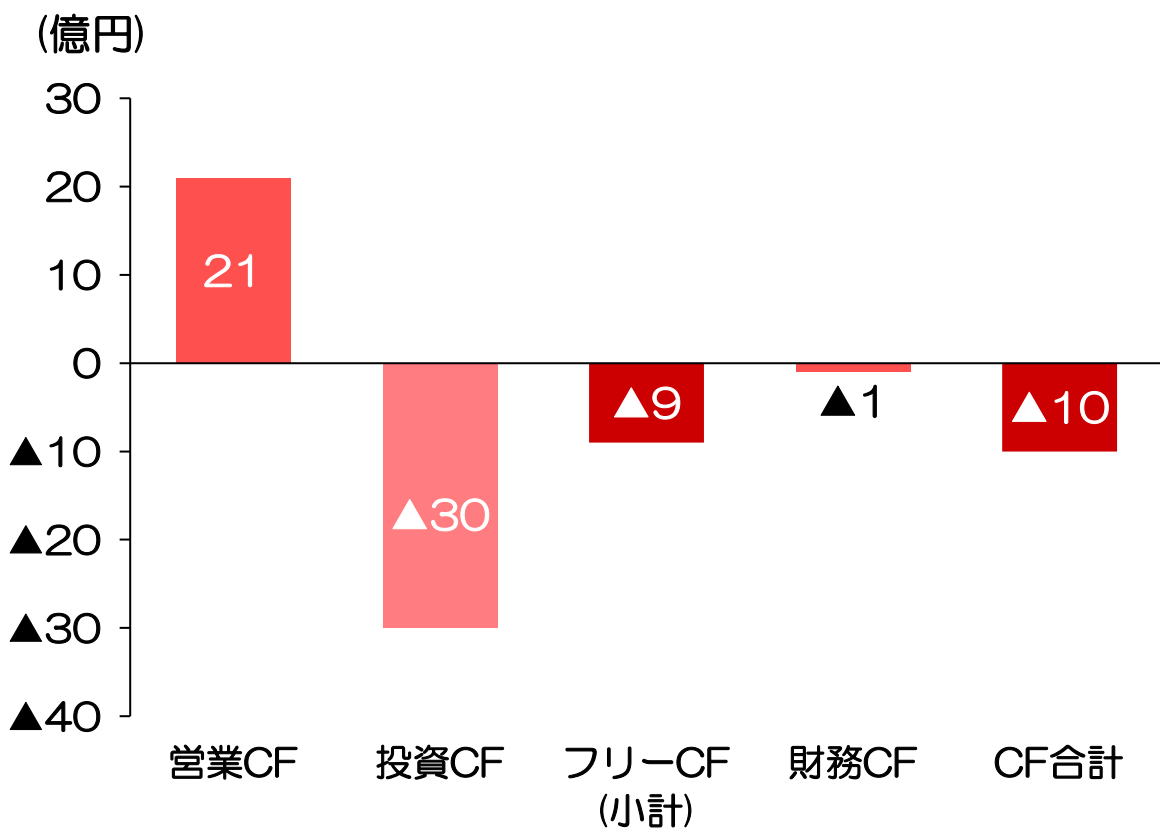
	2022年度 通期実績		2023年度 通期実績		通期差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
(金額：億円)						
チタン事業	393	44	523	84	+130	+40
高機能材料事業	38	4	30	▲1	▲8	▲5
合計	431	48	553	83	+122	+35

01. 2023年度 決算実績(B/S 対2023年3月末)

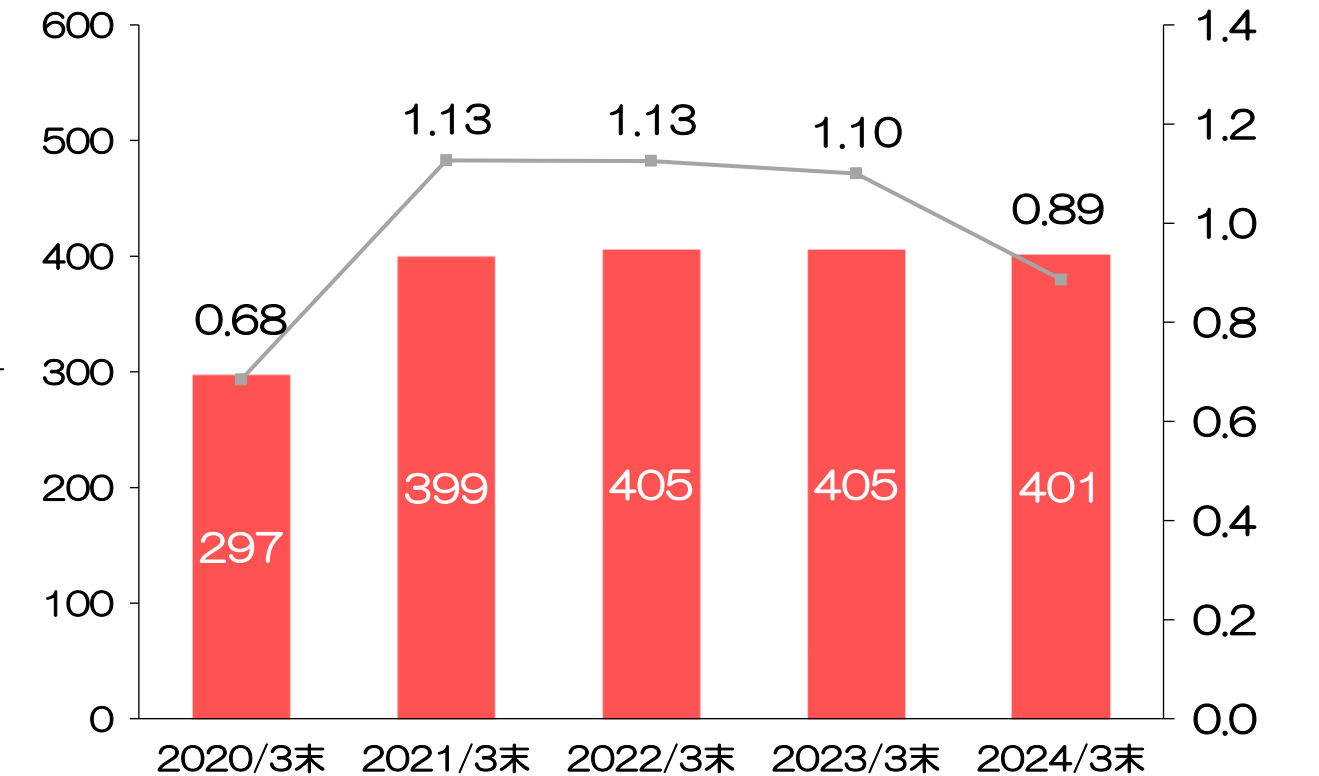


01. 2023年度 決算実績(キャッシュフローとD/Eレシオ)

キャッシュフロー



借入金 (億円)



01

2023年度 決算実績

02

2024年度 業績見通し

03

中期経営課題とその対応

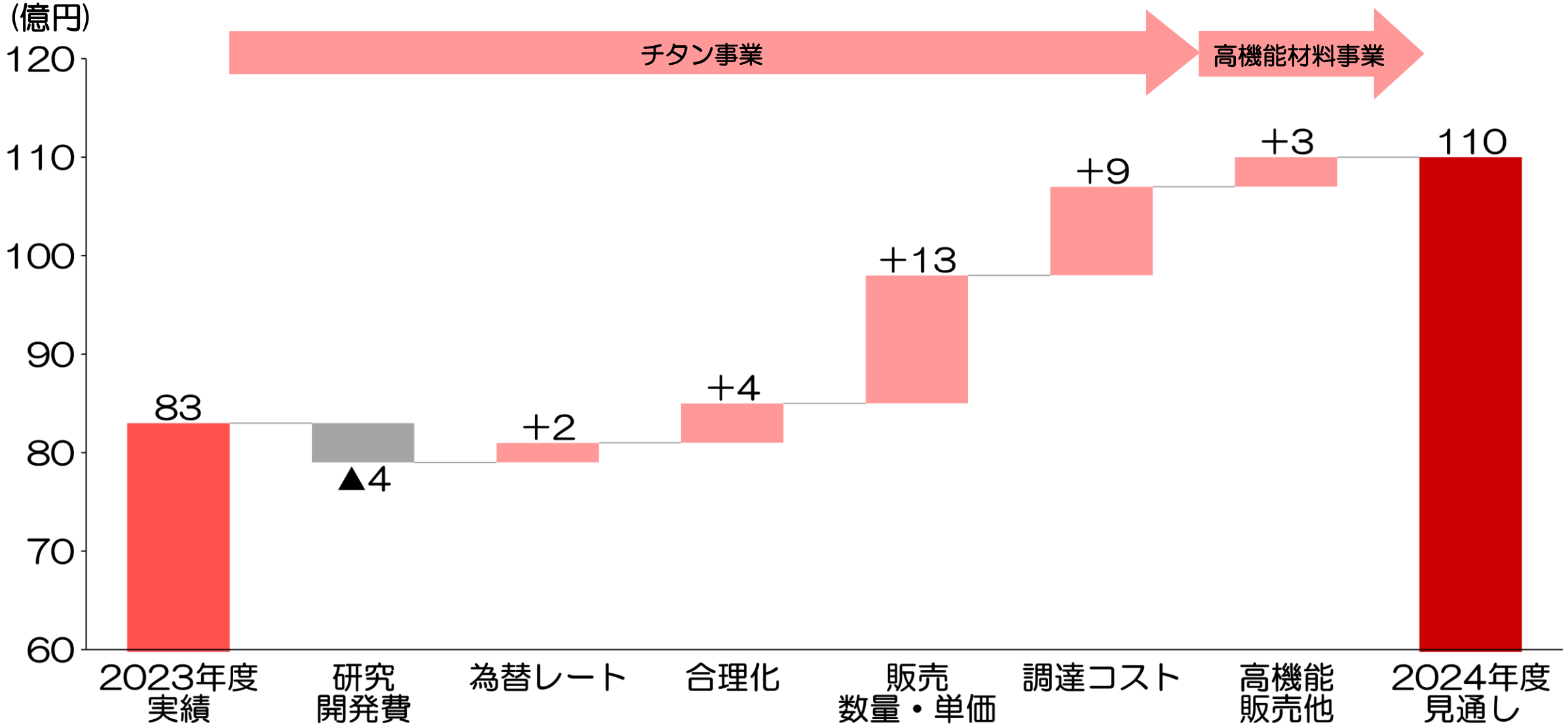
02. 2024年度 業績見通し(事業セグメント別状況)

	チタン事業	高機能材料事業
取り巻く環境	<ul style="list-style-type: none"> 小型機種を中心に航空機需要は回復から拡大に転じており、中期的には大型機種の回復も本格化を見込む 再編されたサプライチェーンの常態化もあり、チタン需要の継続的な成長が予測される 電力をはじめ各種原材料価格は依然として高水準に留まり、収益圧迫要因として継続する 	<ul style="list-style-type: none"> 調整局面にある半導体市場は2024年後半に好転し、関連製品の需要回復を見込む 積層造形市場は欧米において成長しつつあり、先行する医療分野を中心にチタン及びチタン合金粉末の需要が段階的に拡大する
主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 需要拡大に対応して現有設備を最大限活用したスポンジチタンの最適生産体制を構築する 高コスト環境下でも事業収益性を確保するために徹底した合理化や製品価格の適正化に継続して取り組む 現有設備での生産量最大化の取り組みと並行して、生産能力の増強計画の具体化を進める 	<ul style="list-style-type: none"> 特長ある高純度チタン製品を武器に回復する半導体分野において拡販、シェア拡大を図る 合金TILOPの事業基盤を強化しながら営業力の拡充により事業成長を加速する 新たな事業の創出に継続して取り組む

02. 2024年度 業績見通し(業績概要)

(金額：億円)	2023年度 通期実績	2024年度見通し			通期差異
		上期	下期	通期	
売上高	553	263	307	570	+17
営業利益	83	50	60	110	+27
経常利益	94	47	59	106	+12
税引前利益	93	46	52	98	+5
当期純利益	97	32	39	71	▲26
為替レート(円/\$)	(143.8)	(145.0)			—
(期末日レート)	(151.3)	(145.0)			—

02. 2024年度 業績見通し(営業利益増減内訳 対2023年度実績)



02. 2024年度 業績見通し(事業セグメント別業績)

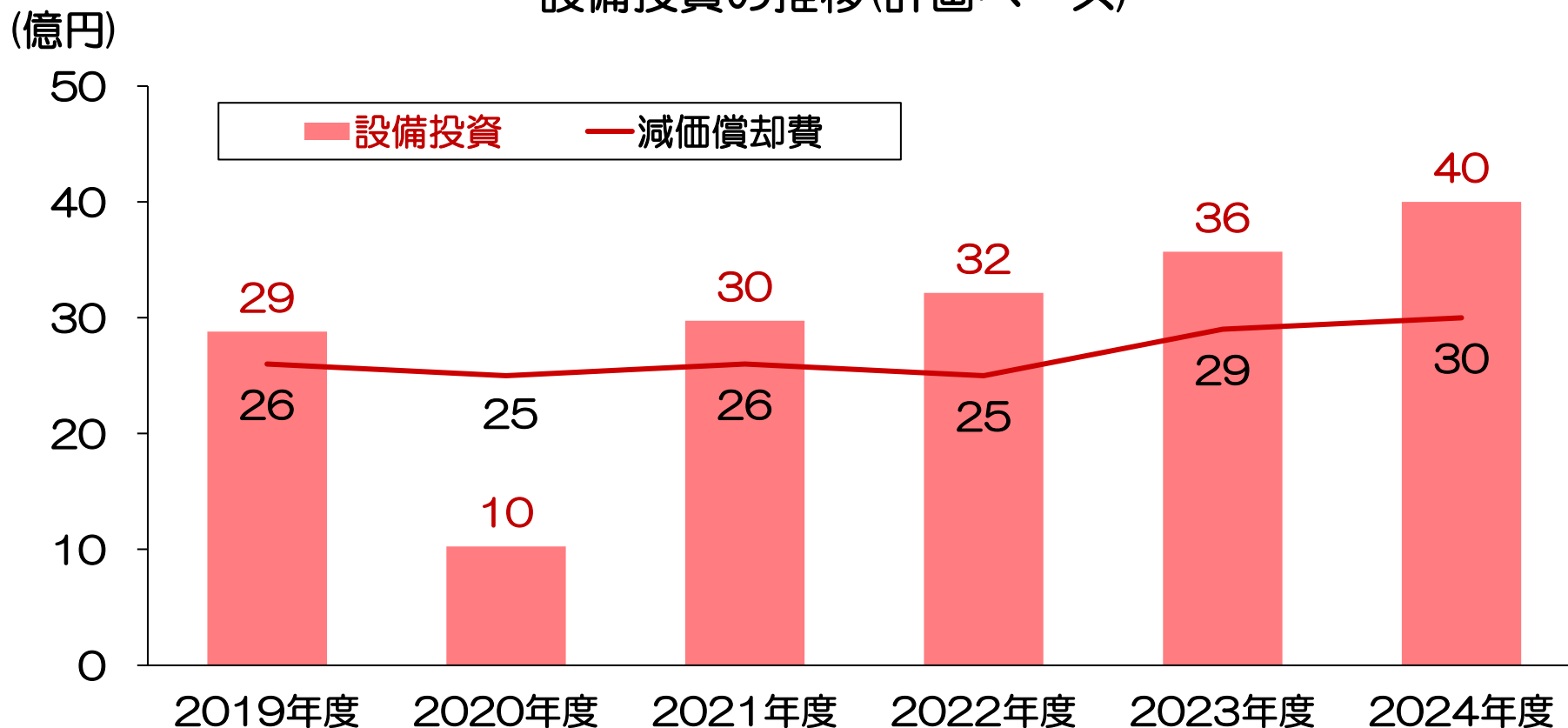
	2023年度 通期実績		2024年度 通期見通し		通期差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
(金額：億円)						
チタン事業	523	84	525	108	+2	+24
高機能材料事業	30	▲1	45	2	+15	+3
合計	553	83	570	110	+17	+27

02. 2024年度 業績見通し(設備投資と減価償却費の推移)

<設備投資の考え方>

- スポンジチタン工場の高稼働率の維持や、設備負荷が高まる中で事業継続に向けた老朽設備の更新
- 工程の自動化や作業負荷の低減などの職場環境改善投資にも注力

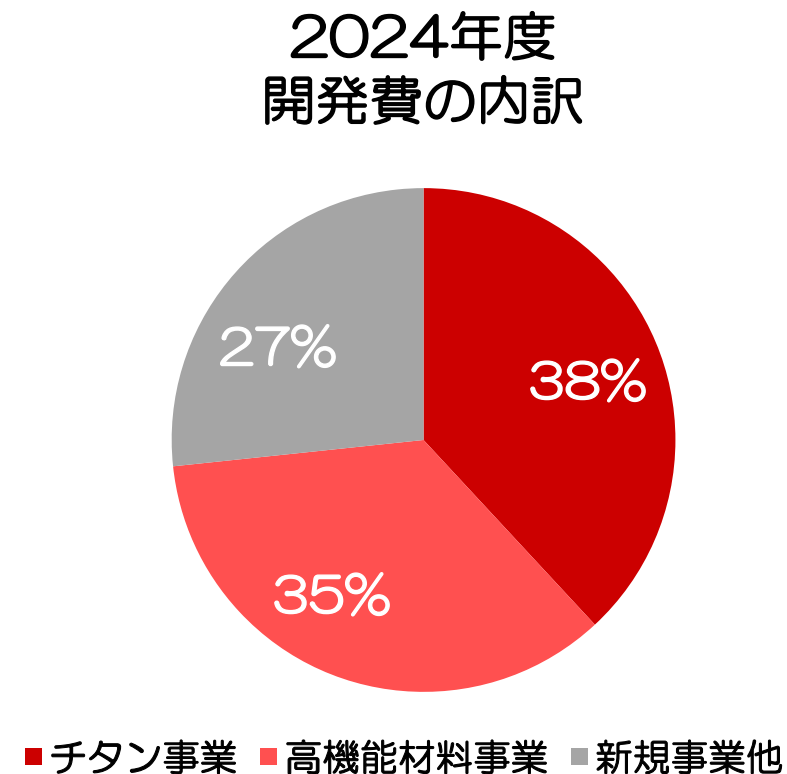
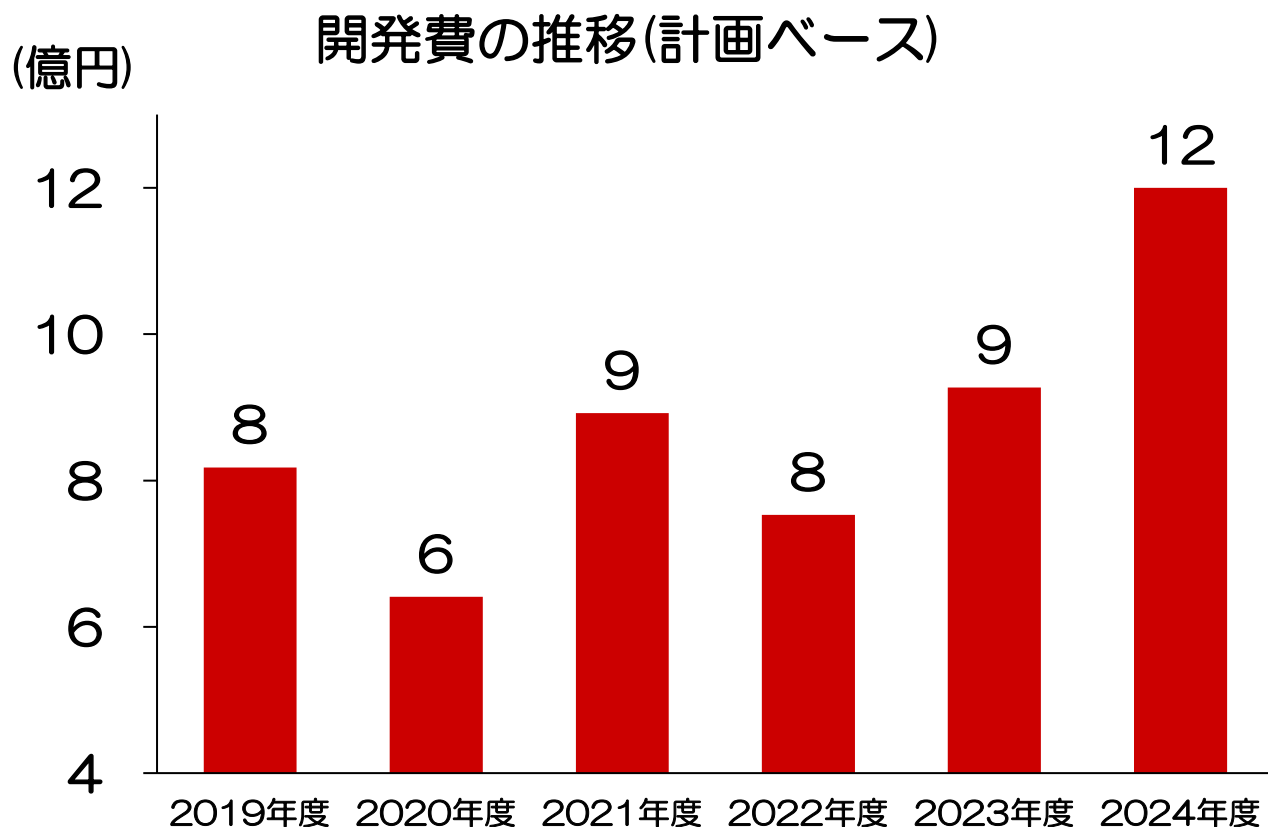
設備投資の推移(計画ベース)



02. 2024年度 業績見通し(開発費の推移)

<開発費の考え方>

- 既存事業の生産性向上やコスト削減のための生産技術の高度化や自動化のための技術開発
- 事業ポートフォリオの変革を促すための高機能材料事業の成長促進や新規事業の萌芽のための開発



02. 2024年度 業績見通し(配当について)

株主還元方針

安定性に配慮しつつ25~35%の配当性向を目安とする。

	2023/3月期	2024/3月期	2025/3月期(予想)
中間	10円/株	20円/株	25円/株
期末	25円/株	50円/株	25円/株
年間	35円/株	70円/株	50円/株

01

2023年度 決算実績

02

2024年度 業績見通し

03

中期経営課題とその対応

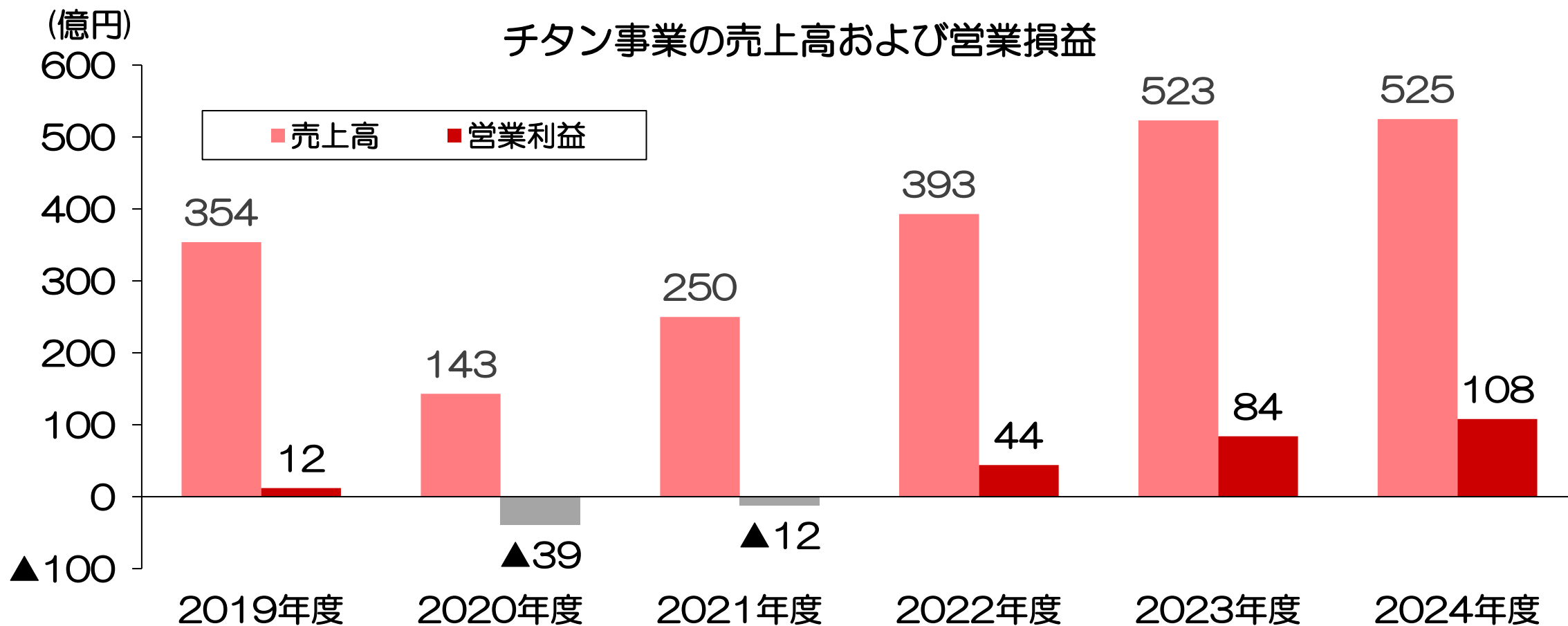
03. 中期経営課題とその対応(課題と基本方針)

中期経営課題と基本方針

- ✓ **市場の成長軌道への回帰を背景にチタン事業を中核とする持続的成長戦略への復帰**
 - 顧客連携スキームの見直しと製品価格の適正化による収益基盤の回復
 - 継続的なコスト削減と生産効率向上による生産能力の最大活用
 - 職場環境改善(自動化、業務負荷低減)による労働生産性の向上
- ✓ **事業構造の強化による収益力の補強と成長戦略の加速**
 - 成長市場にアクセスする新規事業の早期戦力化による成長力と収益力の獲得
 - 事業ポートフォリオの変革に繋がる新規事業育成の進展
- ✓ **財務体質の早期健全化による安定成長基盤の復元**
- ✓ **カーボンニュートラル対応をはじめとする環境負荷低減に向けた多面的な活動の推進**
- ✓ **IT技術の積極的な活用**
 - DXに対応した基幹システムの刷新と業務改革の推進
 - AI等の数理工学を活用した生産技術の高度化
 - スマートファクトリー化に向けた全体構想の検討

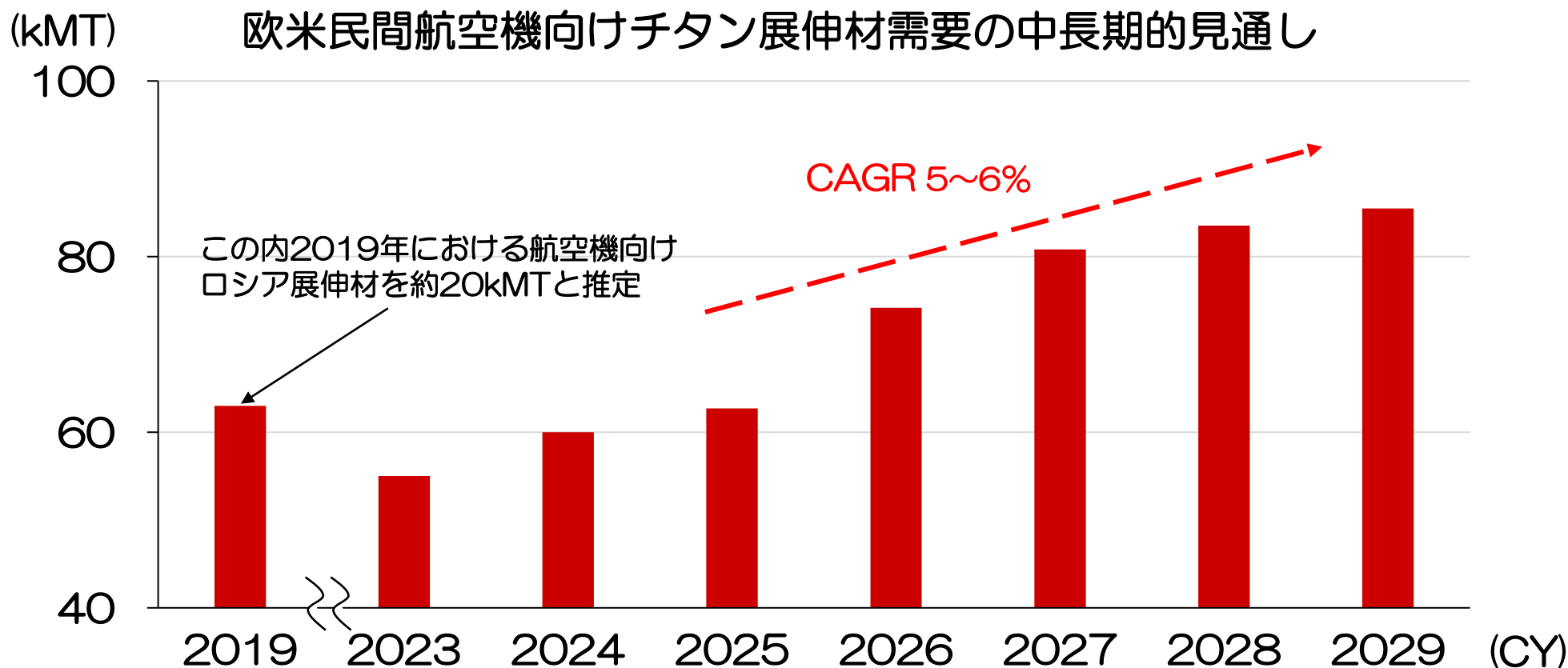
03. 中期経営課題とその対応(チタン事業の業績推移)

- ✓ コロナ禍により激減した航空機需要は漸く回復し、成長軌道へ移行しつつあり、チタン事業の業績も回復
- ✓ 諸物価の高騰による高コスト環境が続く中で、生産諸元の改善や操業条件の最適化等によるコスト合理化の徹底と共に、持続的成長が可能な水準に販売価格を適正化することにより収益性を維持、向上する



03. 中期経営課題とその対応(チタン事業：中長期的な成長需要への対応)

- ✓ 航空機需要は、先行して小型機種の生産レートが回復し、増加しつつあり、中期的に中・大型機種の本格回復も見込まれ、コロナ禍以前の持続的成長(年平均成長率5~6%)に復元しつつある



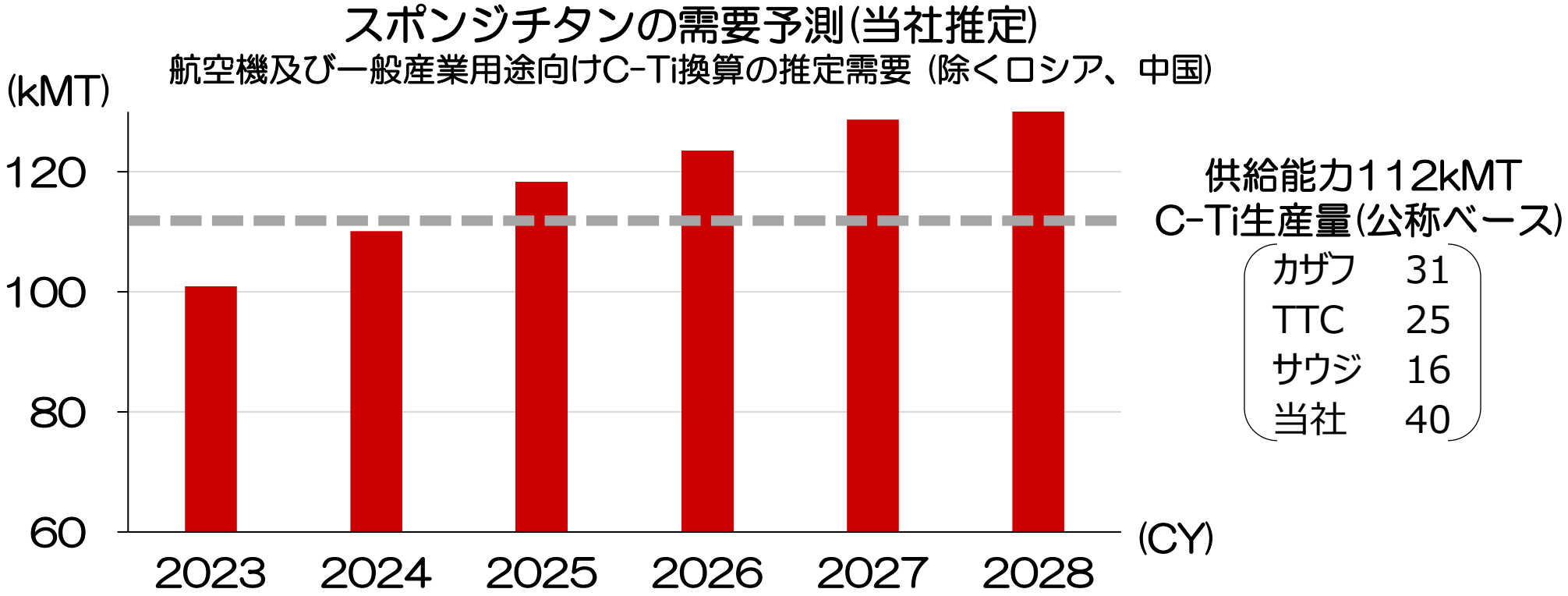
出所：当社顧客等へのヒアリングに基づいて当社推定

03. 中期経営課題とその対応(チタン事業：中長期的な成長需要への対応)

- ✓ 持続的に成長が見込まれるスポンジチタンの需要に対応するため
 - ⇒ 現有設備をフル活用したスポンジチタン生産量の最大化の追求
 - ①高稼働率の維持と生産量最大化のための生産体制の構築と維持
 - ②AI等の先端技術を活用した生産技術の高度化と生産効率の追求
 - ③既存プロセスの革新によるコスト構造の改質

03. 中期経営課題とその対応(チタン事業：中長期的な成長需要への対応)

- ✓ 航空機需要は長期的な安定成長が見込まれ、更に、チタンのグローバルサプライチェーンの再編が常態化することにより、欧米の主要チタン展伸材各社は、30%程度の生産能力の拡充計画(2024年～2025年)を推進中であり、スポンジチタン需要の中長期的な伸長が期待される
- ✓ スポンジチタンの需給逼迫の懸念が高まっていることから、当社の顧客であるチタン展伸材各社から安定供給の強い要請がある



出所：当社顧客等へのヒアリングに基づいて当社推定

03. 中期経営課題とその対応(チタン事業：中長期的な成長需要への対応)

- ✓ チタン事業を主軸とする当社成長戦略の実現や
チタン市場における当社プレゼンスの維持・向上に向けて

⇒スポンジチタン生産能力の拡充のための投資計画の具体化を加速

- ①本社・尼崎工場に10,000トン/年規模の新工場を建設
*公称能力40,000トン/年(現在) ⇒ 50,000トン/年(建設後)
- ②既存設備を最大限活用して工期や費用の最小化を図り
建設と並行した人材確保・育成により垂直立ち上げを狙う
*休止中の小型炉工場(3,000トン/年)の再稼働をスキップ
- ③投資規模は約300億円

終了

本資料は金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また本資料に記載された将来の予測等は説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、不確定要素を含んでおります。このため様々な要因により実際に生じる結果が予測内容と異なる可能性があることをご承知ください。本資料利用によって生じるいかなる結果につきましても、当社が責任を負うものではありません。